

イマ“お茶ノ子”が気になる



今、静岡大学で最も勢いのあるよさこいサークル、「お茶ノ子祭々」。私たちはその全容を明らかにすべく、「お茶ノ子」の「イマ」取材してきました。



渡辺哲さん 原田拓実さん 海山香菜子さん

✓運営方法

運営は、すべて学生が行なっています。100人以上の大所帯をまとめるコツは「分業」です。中心となる三年生全員が役割(衣装、振付けなど)を持っています。そして、学生以外の指導者を必要としない理由には、よさこいならではの特徴である、決まった形がないことです。また、メンバーの方の「自分たちが考えたものがよさこいになる」誇らしげで生き生きとしたその言葉はとても印象的でした。

✓教えることの難しさ

多くのメンバーがいるためおどりが苦手な子にも分かるようにその人の気持ちになって説明しています。言葉で伝えることはとても難しいため、このタイミングで手を動かすなど、事細かくできるだけ伝えるようにしています。



✓どんなサークル?

北海道で有名な「よさこい」を踊る大学公認のサークルです。現在は、100人を超えるメンバーで活動しています。先生のような指導者はおらず、先輩が後輩に指導をしたり、学生同士で教えあったりして練習を行なっています。

✓魅力は一生懸命さと笑顔

お茶ノ子の魅力は、メンバー全員が「一生懸命」に取り組んでいるところです。また、お茶ノ子の最大の武器は「笑顔」です。他のチームの演舞を見ている、笑顔と声だけではどこにも負けないよう、メンバー全員が素直に笑顔で踊ろうと思えることはチームの武器です。



お茶ノ子のリアルvoice

- 笑顔**
 - これこそお茶ノ子の最大の魅力!
- 大変!**
 - 全員に目が届くようにすること。
 - 大人数だから技術面、練習量に個人差。
- 楽しい**
 - 拍手ももらえる。
 - 多くの人に見てもらえる。
 - きらきら輝ける場所。
 - みんな真剣だから楽しい。
- 出会い**
 - 大学のどこにいてもお茶の子が♥
 - 友達が増えた!
- 一体感**
 - みんなが全力だから生まれる**迫力!**
 - 練習の一回一回みんなが本気。
 - 演舞中にみんなの音が聞こえる。
- 仲間**
 - 大きな家族のような存在。
 - サークルだけど、一緒に真剣になれる。
 - みんな優しい!

✓伝統から生み出す個性

去年までのお茶ノ子祭々は男女別々の振付けや衣装でしたが、今年は「男女関係なくみんなで一緒に踊る」ことを重視した演技づくりを目指しています。ほかの団体の演技を観たり、自分たちで考えたりして作り上げていくよさこいは各代で自然と個性がでてきます。



✓仲間そして絆

演舞前に円陣を組むことによって、意識を高めています。「お茶ノ子」では、踊りを見せる楽しさをメンバー全員が共有することで、活動中に自然と絆ができています。

✓責任・葛藤

幹部と部員との責任の重さの違いや、演技について涙ながらに意見のぶつけあいもありました。このような経験も一人ひとりがお茶ノ子について真剣に考え、サークルの絆が深まるいい経験になりました。

✓自分自身の成長

視野が広がりました。責任ある立場になると、練習中に仕草から一人ひとりの悩み等に気付く力やその心掛けが身につきました。メンバー選抜することもあるので「人を見る目」がとても大切だと感じました。

✓未来

人数が多くなって、不安な面はありますが、1番は静岡を盛り上げていきたいです。地域のおじいちゃん、おばあちゃん、子供たちに笑顔や感動を与えられる演舞をしていきたいです。

編集後記

今回、お茶ノ子祭々さんにインタビューをさせていただき、皆さんが、サークル活動を生き生きと楽しんで取り組んでいる姿、そして「笑顔」が輝いていてとても印象的でした。今後もお茶ノ子祭々さんの進化に注目です。



- 人文社会科学部
 - 2年 沼野友里亜 星美里
 - 1年 鈴木まるか 園井誠 高橋のぞみ
- 理学部
 - 1年 石原健 谷口勇気
- 地域創造学環
 - 1年 大石清香